

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第 51 回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「姫路城心柱用材」その一

しんばしら

国宝や世界文化遺産として知られる姫路城の天守閣は江戸時代初期の建築物ですが、老朽化や昭和初期の豪雨災害により昭和十年代から根本的な修理工事が必要とされてきました。戦争による中断をはさんで昭和三十一年より天守の解体・修復工事が着手されましたが、後世ではこれを特に「昭和の大修理」と呼んでいます。

姫路城天守閣（兵庫県／戦前の絵はがきより）



天守の解体を進めたところ、城を支える二本の巨大な「心柱」のうち、西の心柱が芯から腐朽して再利用が不可能であることが発見されました。このため替わりの心柱用材となる巨木探しが急遽始められる事態となりました。耐久性も考慮して根元直径一級・長さ二十五メートル以上の曲がりの無いヒノキが求められたのですが、それほど巨木を探すことは容易ではなく関係者は全国を飛び回ることとなりました。



昭和30年代当時の加子母裏木曽国有林

各地で幾つか候補は挙がったものの木の空洞・曲がりや伐採許可の問題で決定せず、巨木の森として知られる「出ノ小路」（現在の東濃森林管理署加子母裏木曽国有林／第三十九回参照）に最後の期待が懸けられることとなりました。

昭和三十四年の年明け、まだ雪がある時

季にも関わらず、工事の期限に迫られる関係者達によって巨木探しの大搜索が行われました。搜索の甲斐あって二月半ばには候補となる巨木が見つかったのですが、実はこの木の内部には腐れがあり、伐採途中であえなく崩れ落ちてしまったそうです。このため再度の搜索が行われ、五月に入ってからようやく心柱に適した巨木の発見に至りました。（このヒノキ巨木の写真は第三十九回参照）

こうして苦労の末に発見されたヒノキ巨木は昭和三十四年五月十九日に、神宮用材を手掛けた経験もあるベテランの杉達によって伐採されました。



伐採される心柱用材

斜面に倒された心柱用材

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、下記コードを読み込んでください。

